

「儲かる農業の経営を目指して！」

増田 郷志 (49歳)
(西予市)

Iターン、新規参入



1 就農の動機・理由

子供のころから農業に興味はあったが、農業に接する機会がなく、関東で就職した時も農業とは関係ない飲食店や営業職等に従事。

コロナ禍となり実家の愛媛に帰ってから新たに仕事を探していたところ、農業は補助金や行政の支援も手厚く、自分でも参入しやすいと考えたことから就農を決意。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和5年)	現在の経営 (令和6年)	将来の経営 (令和9年)
労働力	男1人(本人) アルバイト1人	男1人(本人) 常時雇用1人 アルバイト1人	男1人(本人) 常時雇用1人 アルバイト1人
経営耕地	ハウス 1棟	ハウス 2棟	ハウス 2棟 水田 20a
経営内容	キュウリ 18a トマト 18a	キュウリ 34a トマト 18a	キュウリ 34a トマト 18a さといも 20a

○農業用施設

ハウス (2棟) 計 30a
農業用倉庫 2棟

○主要農業機械

軽トラック 1台
トラクター 1台
管理機 1台
自走式動噴 1台
ハンマーナイフモア 1台
マルチスプレイヤー 1台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県松山市

職歴 関東にて営業職勤務。愛媛に帰郷後は飲食店経営など
就農研修歴

J Aひがしうわ研修施設

(令和3年5月～令和5年5月)

就農年月 令和5年5月

(2) 就農時の思い

当初は年齢的に補助事業の活用は難しいのではと考え、西予の親戚の土地を借りて独学で始めるつもりであったが、周囲の人からアドバイスをうけ、まずは研修を受けて基礎を固めてから農業を始めることとした。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

今まで一切栽培の経験がなく、J Aひがしうわの研修施設で2年間キュウリ、トマトなどの栽培の基礎を学んだ。また、周囲の先輩農家とも積極的に情報交換を行い技術の習得に努めた。

(2) 資金の準備

自己資金のほか、農業次世代人材投資資金、経営発展支援事業を活用し、経営を開始した。また、空きハウスを活用するなど極力経費を抑える努力をしている。

(3) 農地・住宅の確保

施設については研修中に周囲へ相談することで、空きハウスの情報を得ることができた。住宅については地域の地域おこし協力隊が空き家対策の取り組みを行っており、そちらを活用して確保した。

(4) その他苦労したこと

キュウリは収穫時に人手がいることから人材の確保に苦労した。はじめ何人か雇ってはいたがなかなか定着せず、現在は常時雇用1名、アルバイト1名のほか、繁忙期には10名近い人が手伝いに来てくれている。

5 農業経営の特徴

キュウリ、トマトの施設栽培を中心とした経営で、積極的に雇用を導入することで徐々に規模拡大を図っている。また、圃場内の環境整備にも力を入れることで作業効率も向上している。

J Aの部会にも加入しており常に情報収集や意見交換に力を入れている。

6 これからの夢

少しずつ栽培面積と雇用を増やしていき、将来的には法人化し、儲かる農業を実現させていきたいと考えている。また、周年雇用の体制も必要になってくるので、さといもなどの露地野菜やゆず、キウイフルーツの栽培についても検討を始めている。

7 成功したキーポイント

わからないことがあればすぐに聞くこと、そして地域の人たちともよい関係を築けたことが大きかったと思います。

自分から積極的に行動していくことで、いろいろな人たちからサポートが受けられるようになるのではないかと考えています。

8 就農を目指す方へのアドバイス

農業はとても楽しい仕事だと思います。自分の裁量が大きく、休みなども自由に決めて取ることができます。近年は新規就農の補助金等も充実しており、参入のハードルは低くなっています。

しかし、本気でやる気がなければ続けていくことは難しいです。「農業は大変」とよく言われますが、大変なのはどの職業でも同じです。ぜひ皆さん真剣に農業に向き合って頑張ってください。

○ 指導機関からのひとこと

増田さんは技術の習得にも積極的であり、すでにキュウリの生産量も部会で1位になるなど地域を支える重要な担い手となっています。地域のイベントにも積極的に参加しており、今後も地域の担い手として活躍されることを期待しています。

執筆機関

八幡浜支局地域農業育成室西予農業指導班
電話番号 0894-62-0407



キュウリの収穫作業